

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足度を追及する。  
市内に特養施設として運営を開始し永年の歴史的経験を生かし、見直されてきた利用者の生活の質の向上をさらに高め、全部署が緻密な連携をし、高齢虚弱化した利用者の、人生最後の時が、ご本人らしい過ごし方である様、泉苑の組織全体で考える。そのためには正職員と契約職員が多岐な現状のパート業務内容と時間を検討し、ボランティアを含めすべての協力体制の検討を実施し、ご利用者の過ごしを中心とした働きにより体制の改善を図る。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる。
  - (1) 特養を中心とした大規模多機能型施設として地域での役割を再確認し地域への貢献度を更に深める。
  - (2) 地域包括支援センターを中心とした 30 年度の法改正に伴い、地域高齢者のニーズを把握し、住民に混乱を招かぬ様に対応して行く。30 年度も引き続き地域向け食事サービスなどのさらなる浸透のために住民ボランティアとの協働が欠かせないので、地域への関わりを深め理解を広める。
  - (3) 認知症高齢者及び家族への支援として認知症対応型通所介護をさらに検討を続け、在宅療養支援の考え方から、医療との連携を深めていく。
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心を実現する。
  - (1) 利用者への信頼される支援がそのまま経営の安定につながる、特養稼率が常時 95%超になるよう、昨年度に引き続き待機者へのアプローチや、包括支援センター、居宅介護支援事業所への情報交換を密にする。
  - (2) 大胆な組織再編成を行い、利用者への重厚な介護支援が行える職員配を検討し、施設全体の持つ総合力を生かした事業展開に取り組む。
4. 社会福祉法人としての経営体制を確立する。
  - (1) 法人の人材育成のシステムとしてある、チャレンジプランや OJT を利用して細やかな職員の支援を行い、職員採用にも引き続き努力する。
  - (2) 健康管理やストレスケアの手法を導入し、適切な支援を行うとともに職員一人一人が持っている、能力・意欲が反映できるように配慮する。

施設の取組

1. 30 年度は引き続き、ご利用者の過ごし方の向上をさらに推進し、利用者にとっての快食・快便・快眠と個々を中心に適切な支援業務の内容を検討中でも排泄に関する改善を強化する。
2. 認知症高齢者及びその家族への支援をホーム・センター・各の部署が連携して、具体的な方法を確立し施設全体で対応する。
3. 家族支援の考え方から、一人で複数の介護支援（ダブルケアなど）で苦勞されている地域の方々へ白鳥と協働し、解決に向けた取り組みを始める。
4. 来たる大災害を想定した、BCP を活用し、しらとり・地域と連携した防災計画を実践する。
5. リスクマネジメントにおいて、事故・ひやりはっとの検証・分析、掘り下げで考えることで「気づき」を深め予防に繋げる。